

# EMIS代替サービスの検討状況

令和6年7月

厚生労働省医政局地域医療計画課

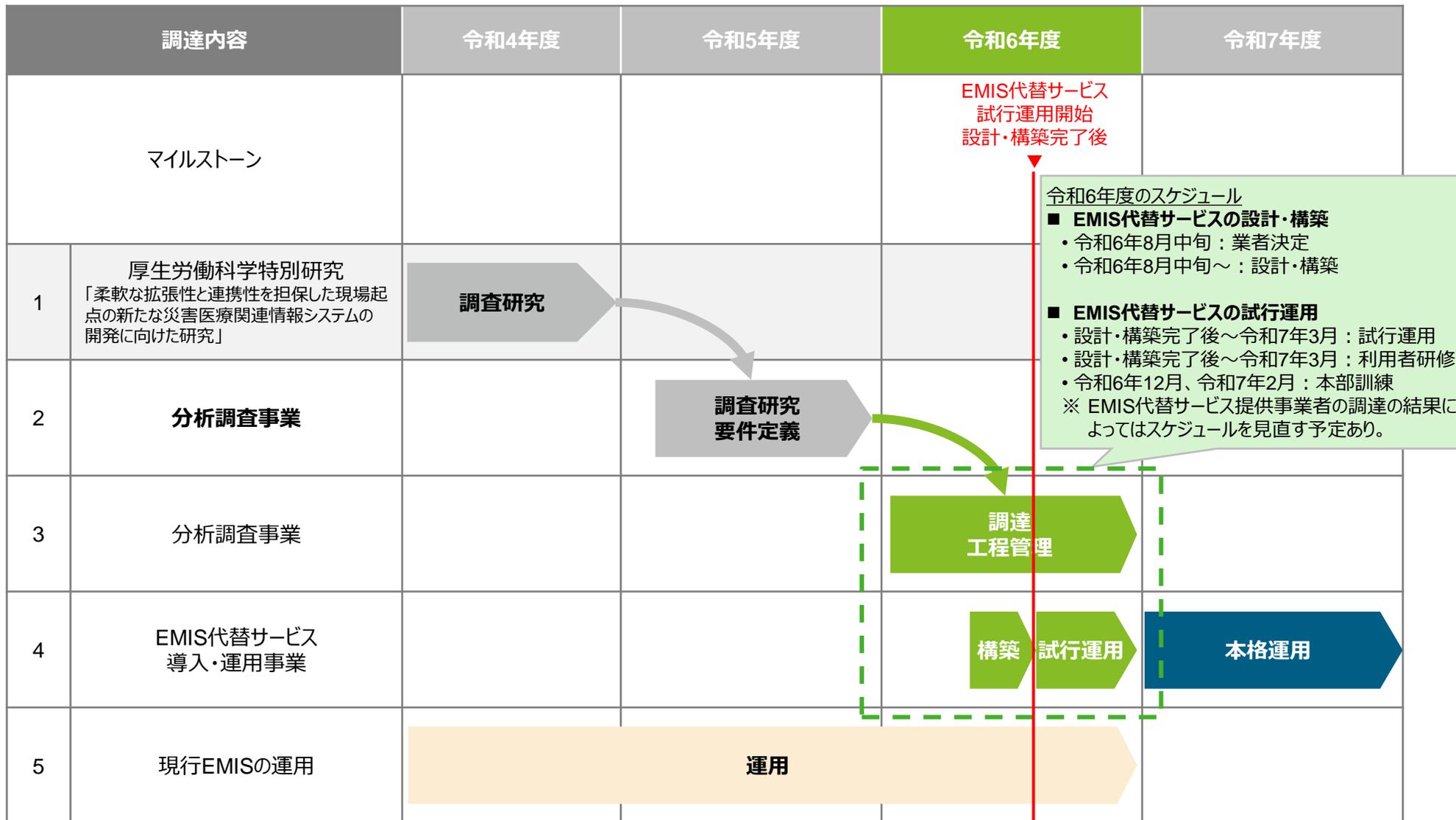
救急・周産期医療等対策室

## EMIS代替サービスについて

厚生労働省医政局地域医療計画課  
救急・周産期医療等対策室

# 1. EMIS代替サービスへの切替計画 本格運用に向けたスケジュール

EMIS代替サービスの設計・構築、運用に向けて調達手続き中です。EMIS代替サービスの設計・構築完了後から試行運用を開始し、令和7年4月から本格運用を開始する予定です。



# 1. EMIS代替サービスへの切替計画 研修・訓練のスケジュール

現行EMISからEMIS代替サービスへの移行を円滑に実施するため、現行EMISからアカウント情報等のデータを移管し、試行運用中にEMIS代替サービスの利用について動画コンテンツなどを用いて利用者研修や本部研修を実施する予定です。

		令和6年度												令和7年度				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
現行EMISの運用		本運用																
EMIS代替サービスの運用		構築・試行運用												本運用				
EMISを使用する各種研修・訓練・災害対応																		
1	実災害発生時の対応	現行EMISを使用												EMIS代替サービスを使用				
2	大規模地震時医療活動訓練	現行EMISを使用												EMIS代替サービスを使用				
3	ブロック訓練	現行EMISを使用												EMIS代替サービスを使用				
4	DMAT隊員養成/ 技術維持研修	現行EMISを使用						現行EMISを使用／R7に向けてプログラム 内容・スライド等を修正						EMIS代替サービスを使用				
5	EMISを使用する都道府県別/ 関連団体の研修・訓練	現行EMISを使用						現行EMISを使用／R7に向けてプログラム 内容・スライド等を修正						EMIS代替サービスを使用				
6	(調査事業)EMIS代替サービス 利用者研修	EMIS代替サービスを使用する都道府県・ DMAT関係者・その他（保健所・ 救護班等）を対象に研修を複数回実施												EMIS代替サービスを使用する対象者に 引き続き研修を複数回実施（※）				
7	(調査事業)EMIS代替サービス を用いた本部訓練	訓練…… 訓練……												訓練（※） 訓練（※）				

※ 令和7年度も調査事業として「EMIS代替サービス利用者研修」や「EMIS代替サービスを用いた本部訓練」を実施するためには新規の予算獲得ができることが前提。

## 2. 都道府県との調整事項

### ① EMIS代替サービスのID・権限の想定

EMIS代替サービスでは利用者のシステム利用権限が最適な形で付与されるように、EMISの利用シーンに合わせて一定の基準を設けることを検討しています。

アカウントの発行・管理に関する名簿管理や申請作業などの運用ルールも併せて検討し、都道府県の依頼事項を整理した上で連絡します。 ●：利用可能な機能

ID発行形態の種類 ※1				利用可能機能 ※1				
利用者区分	利用者	ID種別	入力				参照	
			被災報告	報告 現地活動	搬送	隊員管理	※2 モニター	
1	医療機関	医療機関	●	● ※3	-	-	●	
2	DMAT	DMAT隊員、DMATインストラクター、統括DMAT	● ※4	●	●	●	●	
3	国が養成する災害医療チーム	DPAT、災害支援ナース	● ※4	●	●	●	●	
4	その他災害医療チーム	ローカルDMAT、JMAT、日赤救護班	-	●	-	●	●	
5	都道府県	都道府県庁	● ※5	● ※5	● ※5	● ※5	●	
6	市区町村・保健所	市区町村、保健所	● ※5	-	-	-	●	
7	厚生労働省・DMAT事務局・DPAT事務局、日本看護協会	厚生労働省、DMAT事務局、DPAT事務局、日本看護協会	● ※6	● ※6	● ※6	● ※6	●	
8	コーディネーター関連	災害医療コーディネーター、災害薬事コーディネーター等	●	●	●	●	●	
9	医師会関連	日本医師会、都道府県医師会、郡市区等医師会、歯科医師会、薬剤師会	● ※5	-	-	-	●	
10	消防・自衛隊関連	消防本部、消防局、消防署、消防指令センター、消防学校、自衛隊等	● ※5	-	-	-	●	
11	政府・関連機関	内閣府、防衛省、病院機構、保健機構、警察、大学、日本赤十字社等	● ※6	●	-	-	●	
12	協会・連合会等	病院協会、看護協会、医薬品棚卸協会、医会等	-	●	-	-	●	
13	本部・活動拠点・DMAT隊	災害対策本部、保健医療調整本部、活動拠点本部、DMAT支援隊等	-	●	-	-	●	
14	システム管理	システム管理用アカウント、現行事業者、メンテナンス機関等	●	●	●	●	●	
15	研修・訓練	研修用アカウント、訓練用アカウント	●	●	●	●	●	

※1 ID発行形態及び利用可能な機能を検討中。EMIS代替サービス事業者が決定後、変更の可能性あり。

※2 現行EMISの医療機関等・支援状況モニター、活動状況モニター、医療搬送患者モニターの意味。

※3 現行EMISの救護班活動状況入力の利用権限。

※4 支援先医療機関に対する代行入力が可能。

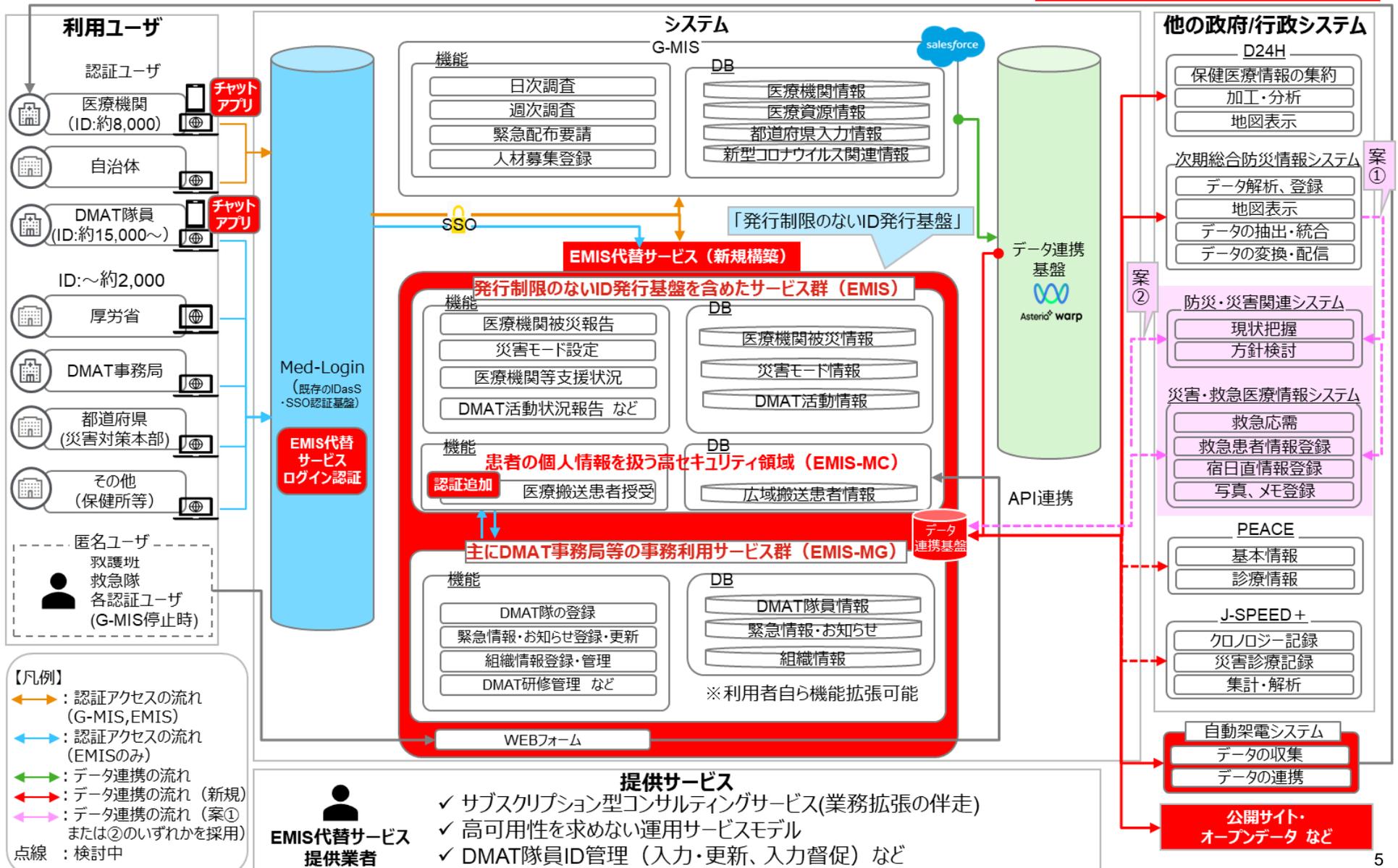
※5 自都道府県内の範囲で代行入力が可能。

※6 全国の代行入力が可能。

## 2. 都道府県との調整事項

### ② 都道府県の関係システムとEMIS代替サービスの連携方針 システム連携イメージ

EMIS代替サービスの提供範囲（新規構築）



## 2. 都道府県との調整事項

### ③EMIS代替サービスの利用料

EMIS代替サービスの利用料については従来通り、都道府県及び国にて負担する方針であり、都道府県の負担については現行EMISの利用料を超えないように調整中です。利用料の内訳は、都道府県における局地災害時の支援や平時の研修・訓練等です。また、利用負担にかかる公文書は別途連絡する予定です。

【凡例】都道府県における利用負担有無の想定  
○：あり ×：なし

		令和6年度												令和7年度				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
現行EMISの運用		本運用																
EMIS代替サービスの運用								構築・試行運用						本運用				
EMISの利用にかかる予算																		
1	現行EMISの利用 にかかる利用料	従来通り、都道府県及び国にて利用料を負担												システム終了につき利用料の 支払いは不要				
		○												×				
2	EMIS代替サービスの利用 にかかる利用料	まだ運用開始していないため 利用料の発生なし						運用は開始しているが、 試行運用期間として 運用費用を全額国にて負担						従来通り、都道府県及び国にて 利用料（都道府県における局地災害時 の支援や平時の研修・訓練等）を負担 ※利用料は現行EMISと同額				
		×						×						○				

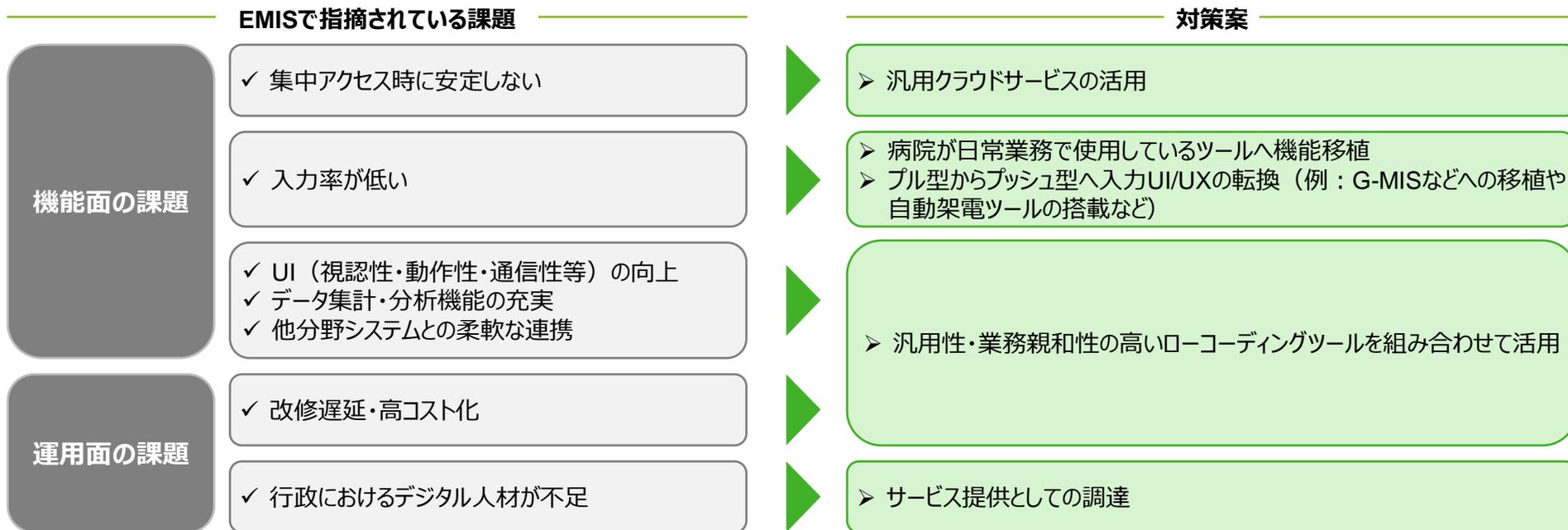
# (参考) EMIS代替サービスの概要

## EMIS代替サービスの必要性

令和4年度の厚生労働科学特別研究事業において、EMIS代替サービスの将来像についての研究を実施しています。当該事業を通じて現行EMISにおける課題とその対策案が整理されています。

### <令和4年度厚生科学課特別研究事業の研究結果>

- 令和4年度に、現行EMISの機能整理、DMAT事務局担当者へのヒアリングを行った上で、各種検討を実施。
  - 国が新たなシステムを調達する際に仕様書上定めておくべき要素・要件などを専門的な視点から整理
  - 専門家と現場による評価を実施できるシステムのプロトタイプ、デザイン、基礎情報等を開発
  - 基礎資料、デザイン、アーキテクチャ、運用体制の想定案等を作成
  - DMAT等の現場危機管理担当者からの評価を受け改善を実施



研究代表者：高尾洋之（慈恵医大）

研究分担者：武田聡（慈恵医大）、阿南英明（藤沢市民病院／神奈川県庁理事）、近藤久禎（DMAT事務局次長）、佐藤浩之（慈恵医大）

※総括研究報告書は「[https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report\\_pdf/202206029A-sokatsu.pdf](https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202206029A-sokatsu.pdf)」を参照

# (参考) EMIS代替サービスの概要

## EMIS代替サービスのコンセプト

### 災害時に真に使えるシステム

医療機関が入力しやすい

行政が情報を把握しやすい

確実にアクセスできる

情報を有効活用できる

平時から十分準備ができる

#### 平時の備えが不十分

医療機関における耐震性や自家発電機の有無などの**基本情報が収集されていない**  
DMAT隊員の資格期限が管理できておらず、**派遣直前に資格切れに気付くことがある**  
災害モードに切り替えると、訓練時の情報が消えてしまい、**訓練に支障**

#### 入力に時間がかかる

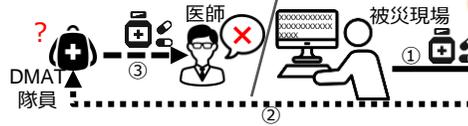


被災現場  
被災報告内容が多数あり、**入力に時間を要する**  
PCでは**手軽に被災状況を入力できない**  
モード切替時の**被災報告入力**  
**依頼メールに気づかない**

#### 支援ニーズを必要な時に把握できない



都道府県等  
ニーズを判別するための**重要情報が埋もれてしまっている**



被災報告が1度のみで、刻一刻と支援ニーズが変化する災害時に**リアルタイムの支援ニーズを把握できていない**

医療機関からの支援ニーズありきになっており、**状況把握の遅れが支援の遅れに直結**

#### 活動中の情報共有が不自由

関係者間で双方向型のコミュニケーションをとる手段がない

文字以外の情報の共有機能がないため、**民間の資料共有サービスを利用してあり、セキュリティに課題**

#### EMIS

**いざという時に使えないかもしれない**  
災害時に**アクセスが集中し、システムがダウン**

情報の活用が一度きり

**新たな災害時にデータをクリアしているためデータの蓄積がない**

改修にコストがかかる

改修の度に**調達業務と改修費用が発生している**



都道府県  
救急医療情報システム

省庁間連携がない

全体

**有事対応を迅速に開始できる**

G-MISの汎用調査で入力・更新を促し、**平時から情報を蓄積**

資格管理機能を**DMAT事務局でも活用できるようにしてプロアクティブに管理**

必要最小限の訓練環境を構築し、**いつでも訓練が実施できる環境を実現**

医療機関

**被災現場でも簡単に入力できる**



スマホ入りに最適化されたWebサービス

支援要否のみであれば**最短10秒程度で報告完了**

必要入力項目の**ガイド機能**

G-MISを基本の入口としつつ、**非常時に備えたG-MIS以外の入口**（自動架電、FAX、Webフォーム等）

スマホで撮影した画像のアップロード

都道府県

**タイムリーで十分な状況把握ができる**

都道府県等



優先的に確認が必要な項目が**識別可能**



医療機関

未報告の医療機関に対し、支援の必要性を**定期的に関いかけ・被災報告を催促**

初回入力時のみならず**定期的**に被災状況や支援ニーズの更新を促す

DMAT

**円滑にコミュニケーションできる**

都道府県等

関係者が円滑に状況共有することができる**チャット機能**

資料を保存できる領域を設けることで、情報連携がEMIS内で完結

全体

**いざという時も安心して使える**

災害時を前提とした可用性を持たせつつ、**ダウンした際の代替手段を準備**

災害データ

情報を類似災害発生時に活用できる

被災状況や支援のデータを蓄積し、**新たな災害時の支援ニーズ予測に活用**

国

**簡単に構築・改修できる**

重厚なシステムから脱し、**ローコードツールによる予算確保や調達の回避**

都道府県  
救急医療情報システム

全体

**他省庁情報を活用できる**

国土交通省システム  
（災害時道路情報）

**他省庁システムとの情報連携を再整備**

As-Is

To-Be

# (参考) EMIS代替サービスの概要

## 現行EMISとEMIS代替サービスの機能の比較

EMIS代替サービスは、実災害で確実に利用する機能、現行機能を廃止又は代替する機能、新たに追加する機能を整理した上で設計・構築する予定です。

分類	利用頻度	EMIS代替サービスの実装方針	対象機能（現行EMIS）
現行EMISで提供している機能	よく利用している（実災害、訓練で利用している）	<b>踏襲</b> ・実運用上、確実に利用している機能であるためEMIS代替サービスも実装する	モード状況表示、災害運用状況表示、医療機関状況入力促進表示、問い合わせ、関係者メニュー、緊急情報・お知らせ参照、災害運用切替、基礎情報管理、医療機関情報管理等、緊急時入力、詳細入力、医療機関状況集計、医療機関等状況モニター、活動状況・医療搬送情報等クリア、活動状況モニター、DMAT活動等、救護班登録等、本部活動等、緊急情報お知らせ管理、掲示板、連機機能等
		<b>代替</b> ・他システム的环境や機能で代替できる場合はEMIS代替サービスでは実装しない	ログイン/ログアウト、医療機関基本情報管理
	利用している（利用頻度にバラつきがある、過去の災害で使ったことがある）	<b>廃止</b> ・時代の変化やニーズに合っていない場合はEMIS代替サービスでは実装しない	ログイン/ログアウト（携帯）、関係者メニュー（携帯）、緊急情報・お知らせ参照（携帯）、災害運用切替（携帯）、DMAT活動状況入力（携帯）、関係者携帯電話サービス、e-ラーニングサイト
		<b>代替</b> ・EMIS代替サービス的环境や機能で代替できる場合はEMIS代替サービスでは実装する ・他の政府/行政システムの機能を活用することで代替できる場合はEMIS代替サービスでは実装しない	緊急時入力（練習）、詳細入力（練習）、医療機関等状況モニター（練習）、合同練習管理、訓練予約登録、研修参加者登録閲覧、ログイン/ログアウト（スマホ）、関係者メニュー（スマホ）、緊急情報・お知らせ参照（スマホ）、掲示板（スマホ）、医療機関等・支援状況検索（スマホ）、DMAT活動状況入力（スマホ）、活動状況検索（スマホ）、EMIS（医療機関用アプリ）、EMIS（DMAT用アプリ）、統合地図ビューア、公開サイト、関連様式・ガイドライン・マニュアル等
	利用していない（複雑な機能で分かりづらく実災害、訓練で利用していない）	<b>代替</b> ・EMIS代替サービスで複雑な機能を簡素化できる場合はEMIS代替サービスで実装する	MATTS（医療搬送患者登録、航空機搬送登録、医療搬送患者モニター、搭乗者名簿作成/航空機搬送モニター）
		<b>廃止</b> ・過去に利用されておらず将来も使わない場合はEMIS代替サービスでは実装しない	避難所基礎情報管理、避難所状況入力、避難所状況過去検索、救護所状況入力
新機能（追加）	システムが停止した場合に利用する	<b>追加</b> ・令和4年度厚労科研最終報告書の新機能について実運用の有効性がある場合はEMIS代替サービスで実装する	BIツール、WEBフォーム、OCR、自動架電、ファイル共有、チャット機能、データ連携、SSO認証等

※ 隊員養成研修資料、DMAT連絡会議資料、技能維持研修資料等のDMAT研修資料については、DMAT事務局のホームページに移管する予定です。

# (参考) EMIS代替サービスの概要 検討している外部連携システム

EMIS代替サービスと連携する外部システムについて令和6年度はG-MIS及びD24Hを予定しており、その他システムに関しては時期を含めて検討中です。

システム名	システム概要	今後の連携内容	連携開始
G-MIS	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の医療機関から、病院の稼働状況、病床や医療スタッフの状況、受診者数、検査数、医療機器や医療資材の確保状況等を一元的に把握・支援するためのシステム。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>G-MISの汎用調査機能を利用して、EMIS代替サービスに向けてデータ連携基盤を介し、<u>医療機関の基本情報、施設情報、DMAT資器材情報</u>を連携する。</li> <li>G-MISのIDaaS環境（総合認証環境）を利用して、Med-loginのログイン画面からEMIS代替サービスへSSO連携する。</li> </ul>	令和6年度
D24H	<ul style="list-style-type: none"> <li>SIP4D及び被災地で支援活動を行う保健・医療・福祉チームのそれぞれの独自システムと連携し、災害時の保健医療福祉支援活動に必要な情報を収集、整理統合、加工分析し、<u>支援活動の意思決定判断に必要な情報を提供</u>するシステム。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EMIS代替サービスからD24Hに向けてデータ連携基盤を介して、<u>医療機関の基本情報、施設情報、DMAT資器材情報、被災状況情報</u>を連携する。</li> </ul>	令和6年度
J-SPEED+	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害発生時に<u>災害対策本部と被災地の医療従事者が診察概況の情報をリアルタイムに共有</u>できるシステム。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>J-SPEED+の診療日報等の機能</u>についてEMIS代替サービスに統合や連携が可能であるか検証を踏まえて実現方法を決定する。</li> </ul>	(検討中)
次期総合防災情報システム(SIP4D)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時に災害対応機関が被災状況等を早期に把握・推計し、災害情報を俯瞰的に捉え、<u>被害の全体像の把握を支援することを目的</u>としているシステム。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>EMIS代替サービスと次期総合防災情報システムは連携する方針</u>。</li> <li>内閣府から連携したい情報に関する資料が提供済みであるが、今後も内閣府と協議する中で連携項目が追加となる可能性がある。</li> </ul>	(検討中)
日本産婦人科学会大規模災害対策情報システム(PEACE)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模広域災害が発生し、<u>複数の産婦人科施設が被災した場合に被災情報を取りまとめ</u>、被災地への早期支援に役立てるためのインターネット上の情報共有システム。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>EMIS代替サービスの緊急時入力とPEACEの災害時施設情報入力（基本情報）で入力したデータが不整合を起こさないような連携方式</u>を検討した上で実現方法を決定する。</li> </ul>	(検討中)

※ SIP4D及びPEACEとのシステム連携に関しては、内閣府や産婦人科学会等の所管部署と連携仕様及び連携タイミング等について今後協議を実施予定。